

令和6年度 第2回 都民を対象としたテーマ別環境学習講座報告

「木に触れよう！木と遊ぼう！都会の森で秋探し」

- 実施日時 令和6年10月27日(日)
10時00分～15時30分
- 実施方法 対面開催
場所：新宿御苑、東京おもちゃ美術館
- 受講者数 抽選の結果39名
(受講申込者数44組110名)



□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等
 - ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
2. 自然観察（新宿御苑 母と子の森）

(講師) 吉野 勲 氏

新宿御苑森の会の代表。

主な活動は、新宿御苑内「母と子の森」での子供たちへの自然観察の指導。都心にいながら自然観察を楽しめる「母と子の森」で、都会に住む子どもたちが、自然に触れあい、楽しめるよう観察会などの活動を展開している。



○自然観察をするにあたっての注意点

新宿御苑での注意点や、観察の基本などを確認した。特に新宿御苑ではその場で拾い観察することはできるが、持ち帰ることはできないことを確認し、自然観察をスタートした。



○木の実の観察

苑内にはたくさんの種類の木の実が落ちており、外見だけではなく、剥いて中身を観察したり、においをかいだりし、名前の由来や植物の特徴について理解した。





○昆虫採集・観察

草むらを歩くと、秋の虫が表れる。昆虫が好きなお子が多く、自主的に採集していた。これは何の虫か、足は何本あるか、口から何か出てきた、などじっくり観察した。捕まえられなかった参加者には、捕まえられた参加者が見せてあげたり、持ち方のコツを教えあったりなど、子どもたち同士で情報を共有していた。



○植物クイズ

幹、葉、花、木の実などいろいろなものから推察して何の植物か考えた。写真や動画で植物の撮影を行う参加者もいれば、紙に物を当てて鉛筆で上からこする「こすり出し」で幹の模様などを紙に残す参加者もいた。



3. 移動とお昼休憩

4. 工作体験（東京おもちゃ美術館）

（講師）貝原 亜理沙 氏

東京おもちゃ美術館 運営部チーフディレクター

おもちゃコンサルタント

美術館での調査研究業務や絵画造形教室講師などを経て、2017年から認定NPO法人芸術と遊び創造協会に入職し「東京おもちゃ美術館」に所属。木工から江戸からくり玩具まで工作指導や、収蔵品100カ国・10万点の管理を担当している。



○木について学ぶ

午前中は生きている木の観察を行ったが、午後はその木を使用した工作を行った。

まず、木を使う利点や木をどのように活用していけばいいのかなど、問題点・課題点を提示しながら、木の利用について説明いただいた。午後の講座では、工作や木のおもちゃを使った遊びを通じて、「木と遊ぶ」という私たちに出来る木の利用を体感してもらいたいとも呼びかけた。



○木のペンダント工作

ヒノキを切り出した木材をサンドペーパーで削り、そこに好きな木の実を装飾する工作を行った。

木材を削る前は香りを感じなかったが、参加者が一斉に削り始めるとヒノキの香りが広がり、においからも木を体感することができた。

大人も子供も自分の好きな形、手触り、装飾などを考えながら作品作りを行っていた。





○おもちゃ美術館の見学・体験

おもちゃ美術館にある木でできたゲームやおもちゃなどを使って自由に見学した。農場・お店・食卓と3つのエリアで食べ物の流れを「ままごとごっこ遊び」や物理学などを応用した「サイエンストイ」、昔から歌い継がれた独楽などのおもちゃ等、様々な木を使った遊びを体感することができた。



5. 閉講挨拶、アンケート記入、終了

終了後希望者はおもちゃ美術館で引き続き見学を行った。